

Parité

西東京市男女平等参画情報誌

パリテ

2017.3
Vol.18

特集

女性の活躍を広げるために 授乳体験から始まった起業への道

光畑由佳さん（有モトハウス 代表）



西東京市男女平等推進センター
パリテ

男女 平等参画社会は、男女が共に
様々な分野で活躍できる社会です。
仕事も生活も楽しめる、
そんなライフスタイルについて
考えてみませんか。

contents

- p5 パリテ INFORMATION
「マタニティハラスメント」ってなに？
- p6 パリテだより
- p7 パリテ・ライブラリー
ステキに男女平等参画！ in 西東京
「起業で始まる 私らしい働き方の実現」
- p8 西東京市男女平等推進センター「パリテ」登録団体紹介
「西東京市女性史研究会」



女性の活躍を広げるために 授乳体験から始まった起業への道

起業に至るきっかけや思いは？ 日本の女性がストレスフリーで出産、育児、仕事をこなしていくためには？ 保育所の待機児童が大きな社会問題となっている昨今。今回は、授乳服専門店であり、子連れ出勤ができる場も提供する「モーハウス」を立ち上げた光畑由佳さんに登場いただき、熱いお話をうかがいました。

女性の視点を活かした起業

すべては授乳体験から始まった

起業を思い立った経緯は…。
次女が生まれてひと月後、東京の友人宅を訪ねようとJR中央線に乗ったことなのです。住んでいたくぼから3歳の長女と次女を連れての「長い道中」ではありません。車内で突然次女が泣き出したのです。空腹のせいと分かり、ためらいはありましたが仕方なく、ブラウスの前を広げて授乳しました。子どもはおとなしくなりましたが、周囲の視線を浴び、なぜかいたたまれないような自

分の気持ちに気づいたのです。そのとき、育児中のお母さんたちがなかなか外出しようとしにくい訳が分かった気がしました。こんなことがあるのかと、腑に落ちたんです。

そして、人目を気にせず授乳できるように服があればいいの…と思いついたんです。

公共施設に授乳室を用意してほしいとか、電車で女性専用車両を作してほしいとかいう声はよく耳にします。

確かに授乳できる場を作るのもひとつの方法ではあるでしょうが、作るには時間もかかる。しかも子連れで

移動できるのが授乳室があるところと限定されてしまいます。でも、服なら、自分で着るだけでいいんです。大学の被服学科で学んだ知識を活かし、縫製の出来る人と一緒に試行錯誤しながら授乳服を作りあげました。着用してみたら、なんとこの解放感！これは是非お母さんたちに勧めたい、同時に子育て中の女性たちの我慢を減らしたい！ そう思ったんです。

お母さんたちが実は多いんですね。たしかに私自身にも経験があります。出産予定のひと月前はたいへん充実した気持ちで仕事をしていました。明日生まれるかもしれないから今のうちにやっておこう。そんな気持ちで毎日を過ごしていたからです。でも、それって、産んだら何もできないという無意識の裏返しだったんだと、あとで気づきました。

授乳服を着てみたら、外で子どもに泣かれるのも怖くない。どこにも出かけられる。そう感じて、独身時代と同じように自信がよみがえってくるはずですよ。出産しても何でもできるという気持ちを周りに伝えたいと強く思いました。

子連れ出勤で女性の可能性を広げる

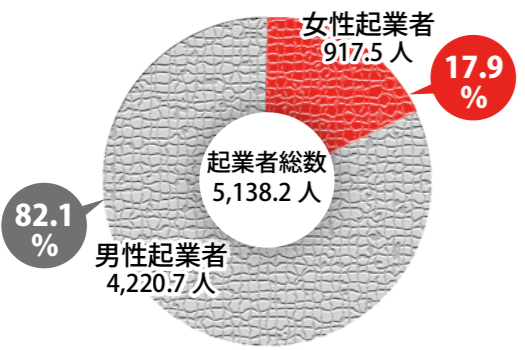
子連れ出勤を始めた理由は、ほかでもありません。育児も仕事も家事もす

べてやりたいと思ったからなんです。中央線での出来事から2カ月後には、授乳服を売り始めました。まずは周りの人脈が頼りでしたね。当初はつくばの自宅を開放して仕事をし、やがてモーハウスをつくばに立ち上げ、8年後には青山にも開店しました。子連れでも働けることを示したかったので自分はもちろん、お店でも子連れのスタッフを採用しています。

私自身や仲間たちは、子どもを育てながら仕事もしたいを実践するために子連れ出勤をしました。スタッフたちも、保育園に子どもを入られなかったから、子連れ出勤にしたわけではありません。このスタイルなら子どもを保育園に預ける必要がないから、お金もかからないし、送迎の手間もいらない、キャリアも断絶しない、とこころよくめです。

こつした子育て、働き方を選んだことで度々取材を受けるようになりました。最初は、なぜ私なんだろうと不思議に思いましたが、子連れ出勤という働き方が実は発信する価値のあるものだと気がついたので。

【資料】 男女別起業家数及び割合



出典：総務省統計局 平成24年就業構造基本調査



▲子連れ出勤中のスタッフの方々。「子連れ出勤ができる会社として独身時代から注目していました」「授乳しながら接客できます！」と語ります。



Profile
光畑由佳 (YUKA MITSUHATA)
 有限会社モーハウス 代表

1986年：お茶の水女子大学被服学科卒業。美術企画、建築関係の編集者を経て、1997年「モーハウス」の活動を開始。
 2005年：東京・青山に直営ショップを開店し、愛・地球博にて「授乳ショー」を開催。
 2009年：内閣府 女性のチャレンジ賞受賞/日本商工会議所 女性起業家大賞 グロース部門優秀賞受賞
 2014年：北京APEC女性と経済フォーラム「日本代表スピーカー」を務める。
 茨城県ユニセフ協会評議員。茨城大学社会連携センター特命教授。筑波大学大学院非常勤講師。三児の母。
 今年、創立20周年をむかえた。

▲にこやかに自然体で話してくださる光畑さん。青山店には、東京コレクションのデザイナーさんとコラボして作ったコート、普段着のTシャツからフォーマルにも使えるお洒落なワンピースまでがずらりと並ぶ。もちろん、すべて機能的な授乳服！

企業も、子連れ出勤を受け入れたほうが安い経費で済むのですから、その点見直してほしいですね。

商品を通してメッセージを届けたい

会社はプッチでも

「プッチ起業」は、中途半端とか、い加減とかのイメージも付いて回るようですが、いい面もあるのです。自分のお金・家で小さく始められるのでハードルが低く、リスクも小さくて済みます。

大事なことは会社の規模、経済的な規模ではなくて、事業内容と社会的影響力だと思っております。

授乳服の販売を始め、やがて授乳ブラ（モーブラ）も作るようになりましたが、この柔らかい着心地のブラを乳がん経験の方が気に入ってくださり、そこからユニバーサルデザインのブラ（しゃん）も始めました。東京都立産業技術研究センターにお声かけいただき、協同で研究を重ねたのです。

ちなみに、「このしゃん」とはありのままの形を包むもの、快適さを優先したものです。授乳中に優しい

子連れ出勤は子どもを連れて社会参加していること。それ自体が立派な社会貢献であると思っています。

ブラを、と追求したのですが、肌の弱い高齢期の方にも、胸周りの手術後にも使える、誰にでも優しいブラになりました。就寝していても使える、3サイズで日本人のほとんどのサイズを包み込める、という利点もあり災害時の支援物資として、東北や熊本にも送りました。必要だと信じたものを、少しでも作り続ける。需要は少なくとも自分にあつたものを探している方に商品を提供できる——これは社会的課題への解決にも繋がっていくのです。



▲授乳用ブラ(上：モーブラ)とユニバーサルデザインでつくられたブラ(下：しゃん)。痛みを感じないようにと研究を重ね、柔らかい着心地のよい生地で作られている。

国の機関で話をしたり、公の場に呼ばれて話したりする機会が増えましたが、「プッチ」で発信できるのは決して「プッチ」なだけではないうまく感じています。必要としている人たちのために作られた商品を通して、従来とは違うライフスタイル、楽な生き方を提案できたらと願うばかりです。

女性を応援しながら、今後もしなやかに生きたい

モーハウスには、プレゼント用に購入されるお客様も見えます。でも、肝心のお母さんたちは買わないんですね。自分のために居心地よくして楽になるよう、自らよい商品を求める女性がまだまだ少ない。

世の中には女性のための施策がいろいろ出てきましたが、一番の問題は女性自身ではないでしょうか。厳しい姑や夫がいなくても、お母さんたちは自ら部屋に閉じこもっているのです。今、女性たちに必要なのは、自信を取り戻すこと。何を糸口にしたら、女性たちが自信を持てるようになるかと考えて、応援するのが私の役目だと思えます。授乳服を着て外に出ること。それも糸口のひとつです。特に産後の女性たちに子連れで外に

出て行つていいのよ、というメッセージを伝えたい。そう思う女性が増えれば、子どもを産む人も増えるに違いないですね。

子育ては大変、大人になるのも大変、と考える若い世代がとても多いのが気になります。講演などで、出産も子育てもエキサイティングで素晴らしい体験と伝えると、何だか楽しそうと、若者たちの考えも変わるんですね。やはり伝えることが大事なんです。中央線での出来事から、ここまであつていつの間でした。人との繋がりに支えられてきたので、大変だったことは…ほとんどありませんね。そうそう、授乳服を提供し始めた当初、お母さんたちが関心を持ってくれなかつたことはいくらでもあります。

これからも今までと同じように、目標達成を目指して頑張るといふよりは、人との繋がりが生まれるものを大切に、自然の流れに身を任せて、強く楽しく、しなやかに生きていきたいと思います。



『働くママが日本を救う! ~子連れ出勤という就業スタイル~』著者：光畑由佳 出版：マイコミ新書 【お問い合わせ】 <http://www.mo-house.net/>

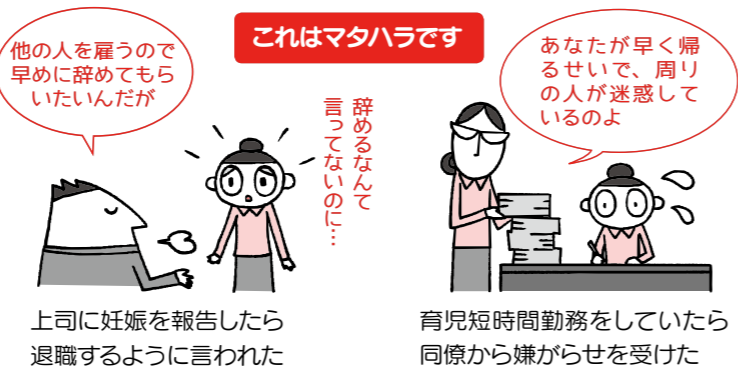
「マタニティハラスメント」ってなに?

◆マタニティハラスメントとは

マタニティハラスメント(以下マタハラ)とは、働く女性が妊娠や出産、育児休業等をきっかけに、職場において精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、あるいはそれらを理由として、解雇や自主退職の強要など不当な扱いを受けたりすることを指します。

イフストのようなマタハラの事例を見てみると、日本の企業文化として長時間労働が美德とされていることや、また、「女性は家庭に居るもの」という性別役割分業の意識が強いことがわかります。マタハラの1因は、このような企業文化や歴史的背景にあるのではないか。

職場でマタハラを経験した女



これはマタハラです

他の人を雇うので早めに辞めてもらいたいたが

あなたが早く帰るせいで、周りの人が迷惑しているのよ

辞めるなんて言わないの?...

上司に妊娠を報告したら退職するように言われた

育児短時間勤務をしていたら同僚から嫌がらせを受けた

◆法律の改正にもなつて

性は28・6%。さらに、妊娠に気づいた時「仕事や生き方・家計などに不安を感じた」と答えた人は55・9%に及びます(※1)。

マタハラ防止措置として、平成28年3月に「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」を改正する法律等が公布され、平成29年1月1日から施行されました。その内容は以下の通りです。

- ◆マタハラ防止に向けた方針を明確化し、それを文書(就業規則等)への掲載などにより周知および啓発させる
- ◆マタハラに関する相談窓口を設けるなど、相談および対応に必要な体制を設ける
- ◆職場でマタハラが起きた場合に迅速に対応すると共に、再発防止に向けた対策を講じる
- ◆マタハラが起きる要因の解消のための状況把握および対策措置を行う

【不利益取扱の禁止】…事業主は、妊娠・出産・育児休業・介護休業等を理由として、解雇その他不利益な取扱いをしてはならない。

【防止措置義務】…事業主は、上司や同僚が妊娠や出産、育児休業・介護休業等を理由として、就業環境を害する行為をすることがないように、防止措置を講じなければならぬ。

具体的に、法改正にもなつて事業主には左記のような対応が義務付けられます。

これらについては、事業規模や業種等にかかわらず、すべての事業主に対して義務が課せられることとなります。そのため、事業主はこれらに対応する必要があります。体制整備等に取り組む必要があ

ります。

◆マタハラって思ったら!

マタハラは妊娠・出産・育児中に受けるために、その多くのケースで女性には泣き寝入りしてしまっているのです。嫌がらせや不当な扱いを受けていると感じた場合は、ひとりで悩まずに相談しましょう。

所属している組織内に窓口がある場合は、守秘義務を確認して利用してみても良い方法です。また、公共の相談窓口や法律相談窓口は数多くあります。

「子どもを持つか持たないかを決める権利」「妊産婦の身体・精神の健康」などは、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(※2)の観点からも必ず守られなくてはなりません。

誰もが働きやすい社会になるよう、すべての人たちが理解し、協力し合えるよう、意識して取り組んでいくことが求められています。

【相談窓口】

- 西東京市女性相談窓口(なんでも相談) 要予約 ☎042(0)4300-0076
- 東京都労働局総合労働相談コーナー ☎(03)3512-1608
- 東京圏雇用労働相談センター ☎(03)5200-0054

(※1) 平成27年連合非正規労働センター資料より
(※2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ…性と生殖に関する健康・権利。安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力を持ち、子どもを持つか持たないか、いつ持つか、何人持つかを定める自由をもつことを意味する。

このコーナーでは、男女平等参画をはじめとする様々なテーマの本を紹介します。
男女平等推進センター「パリティ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひご利用ください。



考えない論
悩まなければ
答えが見つかる!
(ARUMAT)
著者: 杉原白秋

ぼくらは日頃人を無意識に批評している。カンタンにわかったような気になっている。既存の categorie にその人を当てはめただけなのに。相手をわかったと思った瞬間、すでに間違えている、そう考える大切さを人権や平等とリンクさせて読ませるシュールな哲学書です。考えないときこそ無条件に受け入れているのですね。



自分の価値を最大にする
ハーバードの
心理学講義
著者: プライアン・R・リトル
翻訳: 児島修

本文内容に照らして、タイトルの「自分の価値を最大にする」には違和感を持ったが、パーソナリティ心理学の知見に基づき、自分の性格の多面性や他者との違いを認識することは、社会生活を円滑に進め、人生の質を高める上で役立つのではないかと。最近ブームのアドラー心理学とは違った切り口で、楽しく読める良書です。



『女性映画が面白い』
2015年版
(バド・ウィメンズ・オフィス)
著者: 小藤田千栄子・松本侑壬子・藤田篠・林千草・川口恵子・土井ゆみ

「別冊女性情報」という雑誌をご存知だろうか。全国主要新聞17紙から女性関連記事を毎月7000点収集し、厳選した情報500点を特集と18のテーマで掲載・集録している月刊誌である。ここに連載された女性監督作品の映画評を中心に毎年集めたのがこの本で、評者は全て女性。世間とは一味違う女性視点からの鋭い映画評で鑑賞もぐっと深まる。

平成28年度 事業報告

「パリティだより」では、平成28年度に男女平等推進センターが実施した事業の報告をします。

連続講座《沿線3市男女共同参画連携事業》

- 12/16 【講師】藤岡喜美さん
カッツリ起業も、プチ起業したい方もどちらも大切なのが自分が目指す「ビジネス」を描く「自分ブランド」を築くこと。
【講師】山田晴男さん
企業としての働き方改革とは。人材の確保、生産性の向上などを実現するために男女ともに働きやすい職場環境の必要性を説く。
- 10/30 【講師】藤岡喜美さん
ワーク・ライフ・バランスの意識調査として、3市合計約5000の企業に対し実施。女性起業応援フェスタ2016
起業した、また、したい女性の自分のカタチを出展(49団体)、即売を兼ねた商品等の紹介と出展者同士の情報交換。
これって「ビジネス」になるの? かるやかに起業
- 7/8~ 【講師】松本和子さん
虐待相談件数の増加に伴う心理的虐待の現状と対策について。地域全体の課題とするには、一億総活躍社会に必要なもの

週間事業

- 11/11 【講師】吉田朋子さん
初めのお子さまの「うちを」をもつ母親対象のプログラム。おだやかな気持ちで親子が向き合う。
- 7/2 【講師】田中俊之さん
一億総活躍社会に必要なもの

連続講座

- 3月4回 【講師】吉田朋子さん
初めのお子さまの「うちを」をもつ母親対象のプログラム。おだやかな気持ちで親子が向き合う。
- 7月3回 【講師】永田京子さん
アラ還世代の男塾
【講師】①鈴木木治夫さん ②東京芸術大生 ③奥田明子さん
講座①の街に生きて、3000年の雅楽の音色を次世代につなぐ ②雅楽の世界へのいざない ③料理体験「地粉と地場野菜を使って、手打ちの「ぼつと」うどん」の挑戦
BPPプログラム「赤ちゃんがくるよ」
- 5月3回 【講師】永田京子さん
フランスボールエクササイズと更年期に打ち勝つ体づくり
アラフォーママの心と身体のセルフメンテナンス



ステキに
男女平等参画!
「女性の活躍」編

起業で始まる
私らしい働き方の実現

No.6

Best Partner代表 石井 純里さん (西東京市在住)



▲良いアイデアが湧いたら、すぐに動き始める行動派の石井さん

私は、18歳の時に家族と台湾から日本に移住してきました。大学を卒業後、日本で通訳・翻訳の仕事を経て、結婚、退職そして出産。子どもが3歳になった頃からパートや派遣で語学の経験を活かして再び働き始めたものの、家事・子育て、そして昼休みを削って働くような仕事中心の忙しさのなかで体の不調を感じ始め、期間満了で一旦仕事を休むことにしました。

時期を同じくして母が大病を患ったため、一連の治療に付き添うことになりました。日常会話では不自由しない母でも医師とのコミュニケーションは難しく、改めて外国人が日本で治療を受けることのハードルの高さに気付かされました。そんな中で、偶然見つけた求人にて医療機関の通訳をすることになり、4年目になった今でもその仕事は続けています。

その後、西東京市主催の「創業スクール(全5回)」を受講し、昨年「Best Partner」という事務所を設立しました。医療通訳をはじめ、最近は海外からの医療観光ツアーも増えているので、外国人患者をスムーズに受け入れるための仕組み作りを、医療機関に対して提案しています。まだ走り出したばかりですが、日本の良質な医療ケアを海外の方に伝えていきたいという思いもあります。

台湾では結婚・出産後も女性が働き続けるのはごく当たり前のこと。大企業に勤める人よりも、自分の個性や生活を大切にしながらスモールビジネスを立ち上げる人が多いのです。私の母も小さな洋品店を経営していました。今の日本は会社(仕事)を中心としたライフスタイルが主流だけれど、今回起業したことで、自分の人生や家族・生活を中心とした働き方を私なりに実現していきたいと思えます。

パリティまつり

- 1/23~2/3 【講師】安田葉津紀さん
世界の貧困や災害の取材を通して、世界の状況と日本の現状について思いのたけを話す。
講座「国際社会と幸福論」他3講座
体験会「iPad体験会」レシートで簡単家計簿「他」3企画
上映会「わたしはマアラ」八十七歳の青春―市川房枝生涯を語る―
コーナー「カフェコーナー」「簡単!」こけり鬼の面「終活何でも相談」
「団体パネル・作品展示」
- 1/29 【講師】佐藤隆之さん
現代社会を快適に生きるために欠かせないストレスマネジメント、その基本を知る。
【講師】日本セクシャルマイノリティ協会
セクシャルマイノリティについて「自分が接しているときも当事者だったら」という問い掛けを考えてみる。

単発講座

- 3/11 【講師】藤岡喜美さん
ワーク・ライフ・バランスの意識調査として、3市合計約5000の企業に対し実施。女性起業応援フェスタ2016
起業した、また、したい女性の自分のカタチを出展(49団体)、即売を兼ねた商品等の紹介と出展者同士の情報交換。
これって「ビジネス」になるの? かるやかに起業
- 2/19 【講師】佐藤隆之さん
現代社会を快適に生きるために欠かせないストレスマネジメント、その基本を知る。
【講師】日本セクシャルマイノリティ協会
セクシャルマイノリティについて「自分が接しているときも当事者だったら」という問い掛けを考えてみる。
- 1/26 【講師】本間りえさん
多様化する家族の在り方、講師自身の経験や「患者さんを通して、たくましくしなやかに生きるためのヒント」を伝える。
- 11/30 【講師】齋藤美樹さん
思い出をアップリクベアへ
ほっと一息、てしごとカフェ②
- 10/15 【講師】齋藤美樹さん
いろいろな糸でPONPONリースへ
今必要なやかに生きる力、患者の持つ力
- 8/7 【講師】西東京フリーパークキャババン
新聞紙を丸めて、剣にして、遊ぶ。新聞紙をちぎって、プールにして思いっきり、遊ぶ。親子で遊ぶスキルを身につける。
ほっと一息、てしごとカフェ①
- 6/11 【講師】稲塚由美子さん
映画「隣る人」壊れる日本の家族と未来
家族の「中身」と「血縁」はなっていくが
夏休みパパと新聞チャンバラ「小さい子は、新聞ボールもあるよ」



▲ほっと一息、てしごとカフェ(写真上)、新聞チャンバラ(写真下)

は、開催予定の事業となります。

西東京市男女平等推進センター「パリテ」登録団体紹介

西東京市女性史研究会

【会の趣旨と活動】

西東京市女性史研究会は、まちづくりに参画しながらも表舞台に登場することが少なかった市井の女性たちの暮らしや活動を聞き書きによって掘り起し、地域女性史として出版しています。月2回の定例会では新刊の企画、話者の選定、協力依頼、聞き取り、テープ起こし、原稿作成・推敲、編集作業などを行い、発刊までほぼ3年、話者との信頼関係を大切に楽しく活動しています。

【会の成り立ち】

西東京市NPO等企画提案事業として市の補助金をもとに公募市民の「西東京市の女性史を編さんする会」が「西東京市の女性の聞き書き集・年表 いのちと知恵をつなぎ暮らしから社会を変えた女たち」(NPO法人生活企画ジェフリー発行。平成22年)を発刊したのが始まりでした。発刊翌年、編さんする会は自主グループ「西東京市女性史研究会」を立ち上げ、平成25年『西東京市の女性の聞き書き集・年表 女の絆と底力』を発刊。

さらに、28年11月、『西東京市の女性の聞き書き集・年表 地域を彩りはぐくむ女たち』を発刊しました。

【編さんから見えてくるもの】

激動の昭和のさまざまな場面で、知恵を出し合い、暮らしを守り、地域を彩りはぐくんでこられた先輩女性たちの足跡は、まさに次世代に語り継ぐべき貴重な宝。西東京市の誇りといえましょう。私たちはこれからも、わが町の素晴らしい女性史の脈を掘り続けてまいります。



▲「西東京市女性史研究会」のメンバー



▲発刊した2冊の書籍

お問い合わせ

代表 齋藤三枝子 ☎042-467-3173

書籍の頒布申込は木下伸子 (FAX 042-253-5350) まで。

団体登録

(男女平等推進係)

男女平等参画社会の実現をめざして活動するグループを支援します。団体登録をしていただくと、次のとおり施設をご利用いただけます。

活動室

- グループ活動や、活動の際の保育室としてご利用いただけます。(無料)
- 登録団体は2カ月前(その他の方は1カ月前)から予約申し込みができます。
- 利用時間 午前9時～午後10時

団体連絡箱

グループで作成したチラシなどを配布できるロッカーです。申請をしていただくと、ご利用いただけます。

愛称「パリテ」とは… フランス語で“平等な”という意味です。

- ◆企画・編集◆ 男女平等推進センター企画運営委員会
- ◆発行◆ 西東京市生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課 〒202-0005 西東京市住吉町6-15-6 住吉会館内 ☎042-439-0075

- ◆企画運営委員会委員◆ 伊東隆志、白井香澄、田崎吉則、田村悠、中村隆敬、本橋里実、松尾友治、吉田朋子
- ◆制作◆ 株式会社ドゥ・アーバン

▶ご意見、ご感想をお寄せください。情報誌「パリテ」は西東京市のホームページからもご覧いただけます。
<http://www.city.nishitokyo.lg.jp>

Access



編集後記

所属や地位、そして男性や女性としてだけでなく、個人個人の視点や価値観の発信が容易になっている今日、光畑由佳さんのように、思いを具現化することで輝ける方が増えたと地域が元気になっていくと感じました。

伊東隆志

モーハウスさんのことを知ったのは10年前。スゴイ職場があると驚きました。今でも、同じ思いでビジネスを継続されていることに感慨もひとしおです。働き方改革が検討されている昨年、一石を投じる働き方が社会に広がることを望みます。

田崎吉則

少しでも西東京市のお役に立ちたいという思いで、昨年9月より企画運営委員に参画しました。今回のパリテVol.18は私が初めて編集に関わった記念すべき第1号です。これからも多彩で愉快なメンバーと共に、楽しみながら、頑張ります！

松尾友治

気づいた人が始める!当事者の力が社会を変えるパワーを感じた。「仕事、妊娠・出産、子育て」に関する法律の改正が進み、やがて「女性の起業」、「育メン」が当たり前になる。そんな兆しを感じる特集で、さらに元気が湧いてきた。

吉田朋子